

編集後記

『年報』第一九号をお送り致します。

本号は所員諸氏の応募論文で構成しました。一〇〇枚を大中に超える論文が二編もあり、編集上悩みましたが、折角の力作ですので縮小せずそのまま掲載しました。その結果、通常より若干分量の多い年報になりました。「書評」は、所員二氏の労作をそれぞれのテーマに造詣の深い所外の研究者にお願いしました。大塩武、越後和典の両先生には、お忙しいなか心よくお引き受け下さり、内容のある「書評」をお寄せ下さいました。ありがとうございます。

本年度、社研所員をして永い間社研の研究活動に貢献して下さいった高橋七五三所員が定年で大学を去られることになりました。高橋所員の今後のご健康とご活躍をお祈りしたいと思います。

私事にわたって恐縮ですが、私は四月より国内留学を命ぜられ、一年間、専修大学と社研から離れることとなりました。私が『年報』の編集にたずさわってから、本号が三冊目になります。この間、微力ながらも何とか事務局・編集担当

として、職務を遂行できたのは、所長、事務局長をはじめ事務局員諸氏の協力と、なかんずく、『年報』に原稿を寄せて下さった、所内外の執筆者諸兄弟のご協力のおかげでした。ありがとうございます。また、執筆の方々との連絡、わざわざいい原稿の受け渡し、催促など、ともすればどこおりがちな出版社との連絡等に、全力を尽くして下さいった事務局職員の竹内佐和子さんのご苦勞にも心からお礼申し上げます。また、編集業務をほとんど果さず、ただ、原稿をとりそろえて渡すだけの編集担当に対して、『年報』の体裁にととのえて出版にこぎつけて下さった、時潮社の大内氏にもお礼を申し上げたいと思います。

社研の『年報』が、次期の編集担当の方々、執筆者各位によって、さらに充実したものになることを祈って、つたなかつた編集担当の〈後記〉とします。

〈柴田弘捷記〉